

ぬくもりとおもいやりの医療・介護を

今年の夏は、短い梅雨が明けて猛暑日が続いたかと思えば、梅雨に逆戻りしたかのような天気が続いた後、ようやく訪れた感じがします。

思えばこの2年余、世界は、日本は、そして当院は新型コロナに苦しめられてきました。少し前の話になりますが2000年代の半ば、研究会でウイルス学者から「新型インフルエンザの流行は起きるか起きないかの問題ではなく、いつ起きるかだけだ。しかも導火線にすでに火は付いている」「死者は多ければ日本で200万人、そうなれば今の医療は根本から姿を変えることになるかもしれない」という話を聞かされました。いわば日本沈没のリアル版であり、今学んでいる医学の知識や技術は、



そうなれば無駄になるのだろうか、世の中はどうなってしまうのだろうか、という漠とした不安をもったことを覚えています。その後、折にふれてそのことを思い出しましたが、そうはならず済んでいることに感謝して忘れていく日々でした。ところが2019年、武漢に端を発した伝染病は新型インフルではなくSARSでしたが、瞬く間にパンデミックと化しました。

「ああ、とうとうきたのか」

その後の経過は皆さんもご存知の通りです。多くの死者をだし、社会の、そして医療の混乱を生じながらも、ようやく先が少し見えてきたような気がしましたが、7月下旬から再び感染が広がりました。ポストコロナはまだ遠くウイズコロナではありますが。そしてありがたいことに日々のコロナ以外の診療や手術は依然として重要なままであり、世の中もまた営みを続けています。このコロナ騒動では想像を超えたスピードでウイルスが解明され、ワクチンや治療薬が開発認可され、異論もあるかとは思いますが精度の高い対応を日本社会と医療機関は四苦八苦しながらも取ることができたと私は感じています。日本の死亡率は欧米より低く、死者数はこの便りを記載している時点で3万人台です。人類の叡知は15年前の予測より被害を小さくしたのではないのでしょうか。

皆さんは七夕に何を願いましたか？ 当院は、永く地域の皆様の健康を支え信頼される医療を提供できることを願っています。そうなるためには知識を、技術を、そして寄り添う心を養っていくことが大切と思っています。

今号の特集はda Vinciです。当院の気鋭の医師、スタッフ等が良い医療を提供すべく研鑽に励んでいます。

手術支援ロボットを更新しました！



今回当院の手術支援ロボットが新しく更新されることになりました。
これまで使用していた「ダビンチSiシステム」から「ダビンチXiシステム」になります。

新しいロボットで何が変化するのかと申しますと、

まず ①ロボットが上腹部の広い領域で扱いやすくなること、②最新のロボット用鉗子や特殊な電気メスが使用できるようになること、③多くの術式に無理なく対応できるようになることなどが挙げられます。

どれも大きな利点ですので、術者の負担軽減や手術そのものの安全性向上に寄与するのは間違いなさそうです。

これまでのSiシステムで蓄積してきた経験はもちろん新しいシステムにも活かせるので、さらなる手術の質向上に大きく期待しています。

前田雄司（公立松任石川中央病院泌尿器科）

そもそも手術支援ロボットって何？

手術支援ロボット（ダビンチサージカルシステム）は、「ロボット」「コンピュータ」「光学」の各技術を応用して、手術を支援する医療機器で、①サージョンコンソール、②ペイシェントカート、③ビジョンカートの3つの機器で構成されています。



①サージョンコンソール



②ペイシェントカート



③ビジョンカート

①の操縦席に術者が座り、3D画像を見ながら手元のコントローラーを操作します。

②の4本のロボットアームに①の動きが伝わります。

③のモニターに、手術中の画像が映し出され、手術スタッフも同じ画像を共有できます。

手術中の写真を見てみると、術者は患者さんから離れた場所で、操縦しているのが分かります！



手術中の様子 ←

手術支援ロボット（ダビンチサージカルシステム）の主な特長・利点として「体への負担が少ない」ことが挙げられます。手術のために患者さんの身体にできる切開部は、開腹・開胸手術の切開部に比べて小さくなります。そのことにより、少ない出血量で済むことや、より早く回復することができるようになるなど利点が多くあります！

当院では2015年から泌尿器科でロボット支援手術を行ってきました。

昨年からは胃癌にも適応を拡げました。

今年6月には新型の内視鏡手術支援ロボットを導入し、8月から結腸癌にも適応を拡げます。

ロボット支援手術は従来の手術と比べて繊細で正確な手術ができます。より体に優しく安全な手術をしていきたいと考えています。

尾山勝信（公立松任石川中央病院外科）

病院正面の花々を植え替えました！

病院の正面出入り口前や、駐車場付近にはたくさんのお花を植えています。
そのお花の植え替え作業があり、また一段と明るい印象になりました。
来院される方々の目にとまりやすい場所に咲いていますので、ぜひご覧ください。



ニチニチソウ



ベゴニア



マリーゴールド



トレニア



サルビア

中庭で発見！



当院の中庭に、キジバトを2羽発見しました！
調べてみると、キジバトは幸運を呼ぶハトと言われて
いるそうです。窓際にいることが多く、患者さんや職員でも
話題になっていました。

紫陽花特集



今年は梅雨時期が短く、猛暑が続いたため、
例年よりは短い期間でしたが、今年も病院の
紫陽花がきれいに咲きました。
今年、枝の剪定をしていただいたので、来
年の紫陽花も楽しみです！